

「人間と生物圏」共生を基軸とした ESD 研究拠点  
横浜国立大学 里山 ESD Base

せいぶつたようせいほぜん  
生物多様性保全のために私たちができる第一歩は  
身近な植物や動物など生きものを知ること

友達が増えると 楽しいことが増えていく

知っているものが増えると  
世界は少しずつあざやかになっていきます  
色あざやかになった世界はとても素敵で  
毎日異なる美しさを見せてくれます

知って 親しんで いとおむこと  
それが生物多様性保全の始まりです

01  
Step



02  
Step



生物多様性はむずかしくありません

でも 本を読んだり暗記したりするだけでは わかりません

見て かんじること  
体験して 心が動くこと  
まずはそこから始めてみましょう

ほんの少しの出会いがあれば  
世界はちがって見えてくる

地球全体の多様な生物があなたの友達となり  
その多様性を保全していくために いまできることを考える  
そのきっかけになることが 里山 ESD Base の願いです

03  
Step



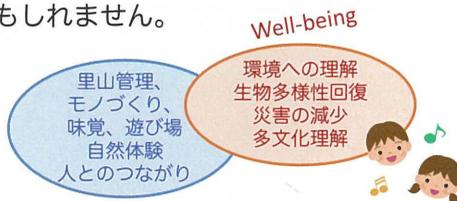
## ＊「里山」ってなんだろう？

里山とは、人が住む集落周辺の雑木林や竹林、ため池、水路、田畑や鎮守の森などで構成されたところをいいます。昔は食べものや薪などの生活に必要なものを人々は里山で得て暮らしていました。里山は自然に成立していた環境循環型社会で、人の手入れによって守られる昔ながらの美しい風景と、多様な生き物が共生できる環境が広がっていたのです。

しかし近年、生活スタイルの変化から、里山は人の手が入らなくなりました。それに伴って生物多様性も減少すると、その土地で培われてきた文化や知恵も衰退してしまいます。古くから紡がれてきた文化や知恵を失うことは、防災減災へ知恵や地域のつながりだけでなく、心の豊かさをも失うことを意味しています。

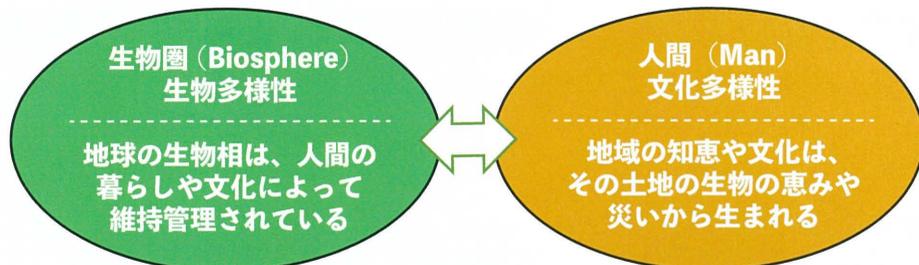


里山での生活や文化を知り、後世に伝えていくことで、よりよい社会、よりよい未来の実現へのヒントになるかもしれません。



中村桂子（JT 生命誌研究館名誉館長）

「生物多様性は教育できない。生物多様性についてあれこれ書いて教えようと思っても、子どもには無意味です。実際に自然と触れ合うのが一番の教育です。」



# ＊「ESD (Education for Sustainable Development) 持続可能な開発のための教育」ってなんだろう？

今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。



(出典：文科省 HP)

## ＊わたしたちは

多様な専門性を持つプロフェッショナルが様々な視点から里山を捉えることで、里山の知恵を未来につないでいけるような ESD、生物文化多様性を維持・発展させていけるような ESD を目指しています。



Key words; 生物文化多様性／異分野融合／課題解決型学習 (PBL)



**Making Peace with Nature 自然との共存**

**横浜国立大学 令和 4-5 年度**

**YNU 研究拠点活動支援事業（若手）採択グループ**

**「人間と生物圏」共生を基軸とした ESD 研究拠点（里山 ESD Base）**

**<https://satoyama-esd.ynu.ac.jp/>**



〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2 横浜国立大学教育学部内

メンバー 代表 倉田薫子（生物多様性保全，植物学）

庶務 高芝麻子（漢詩文，季節感）

広報 河内啓成（絵画，版画，美術教育，ICT 教育）

原口健一（木工，工芸）

松田裕之（生態リスク管理，生態学）

物部博文（学校保健，公衆衛生）

小林大介（木育，木材加工）

奥平直子（理科教育，ESD）